

帰宅後はみんな農作業



SDGsを活用したアイデアを競う全国大会で、最優秀賞となった「氷川のぎろっちょ」の堀川桃子さん（左）、竹山実李さん＝氷川町



中高生のまちづくり企画 全国大会 「氷川のぎろっちょ」最優秀賞

氷川町で耕作放棄地の解消に取り組む中高生の株式会社「氷川のぎろっちょ」が、国連のSDGs（持続可能な開発目標）を活用したまちづくりのアイデアを競う全国大会で、最優秀賞に輝いた。

大会は、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局、内閣府地方創生推進事務局主催。全国の中高生を対象で、約190チームがエントリーした。

受賞したのは、日が落ちた涼しい環境で、耕作放棄地に学校や会社から帰宅した町民が集まり、一緒に農作業するというアイデア。日没という時間帯にすることで、仕事のある大人も参加しやすく、子どもにはワクワクしてもらう狙い。「新・ムーンライト伝説」月夜の農業は、ワクワク感がたまらないよ」という個性あふれるタイトルも評価された。

同社社長の竹山実李さん＝

熊本高専八代キャンパス2年
＝と、堀川桃子さん＝宇土鶴
城中3年＝は「親子連れや独
身、中年以上の男性といった
具合に年齢や性別などでチー
ムを分け、町民同士の交流を
生み出したい。（受賞には）
驚いたが、日本一の称号はう
れしい。これを機に一緒に活
動する人が増えてくれると心
強い」と笑顔を見せた。

表彰式は11月9日、名古屋
市で開かれる。

同社は、熊日宮原販売セン
ターの子ども記者クラブの中
高生5人が2018年に設
立。町内の耕作放棄地で草刈
りや、スタチなどの実験栽培
をしている。

（中村悠）